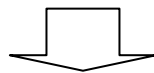
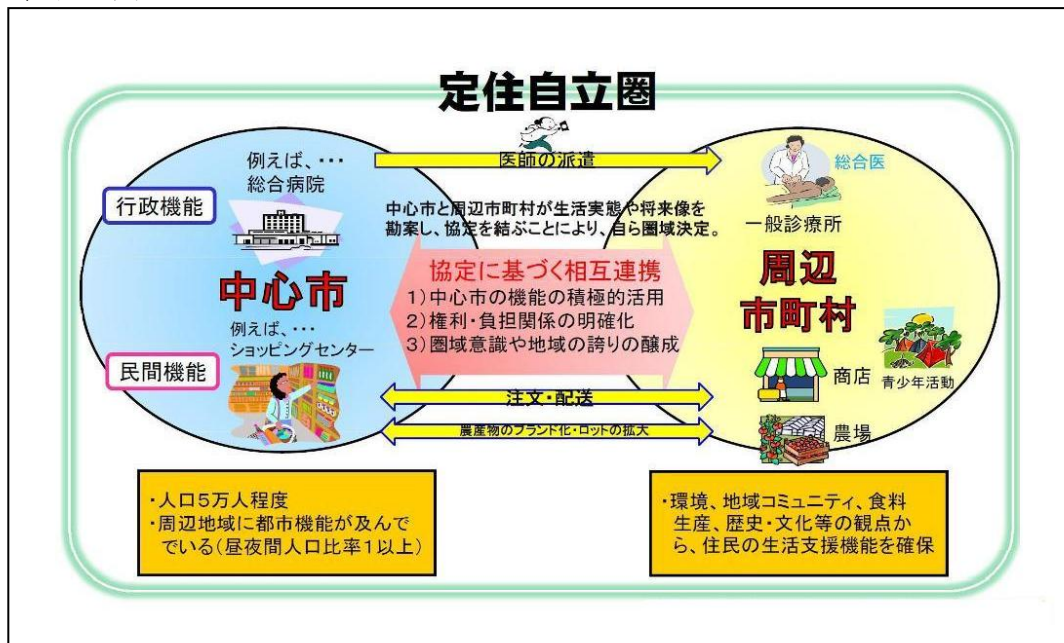


中海圏域の定住自立圏構想の進捗状況について

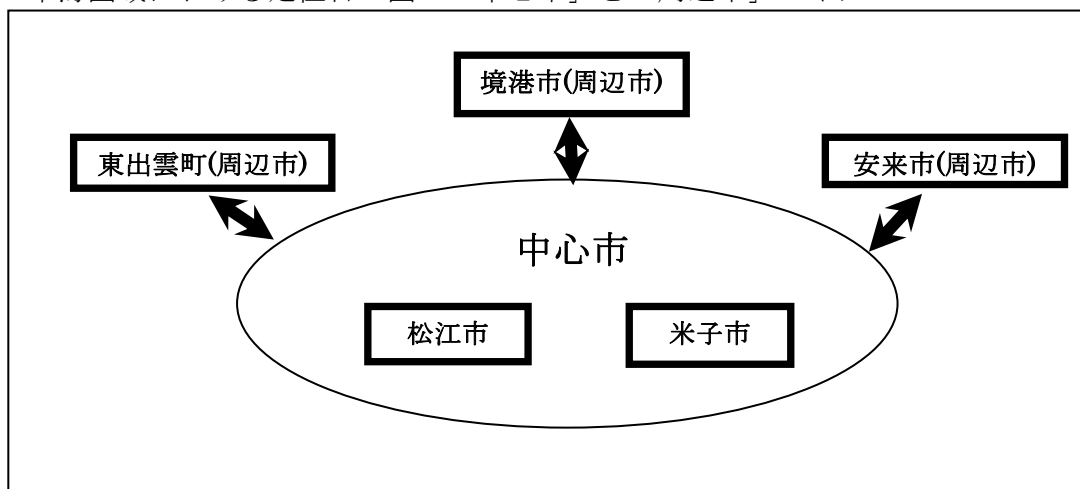
1 定住自立圏とは

- ・「定住自立圏構想」は、人口などの要件を備えた中心市と周辺の市町村が連携・協力して、必要な都市機能や生活機能を確保するとともに、地方への定住を促進することを目的とした国の制度です。
- ・「定住自立圏」は、中心市と周辺市町村が、自らの意思で連携可能な事業や施策について、1対1の協定を締結することを積み重ねる結果として形成される「圏域」のことです。

<定住自立圏のイメージ>



<中海圏域における定住自立圏の「中心市」と「周辺市」のイメージ>



2 取り組み状況

- (1) 中海を取り巻く境港、米子、松江、安来の各市と東出雲町の四市一町で構成する中海市長会が、平成20年10月、国が推進する「定住自立圏構想」の先行実施団体に選ばれ、その後、圏域として取り組んでいく事業などを協議してきました。
- (2) 昨年4月には、松江市と米子市が中海圏域のリーダーとして、「誰もが安心して心豊かに暮らせる魅力ある定住自立圏を形成するためのマネジメントに努める」旨の「中心市宣言」を行いました。
- (3) 昨年10月には、「中海圏域の定住自立圏の形成に関する協定」を中心市である米子市、松江市と締結し、次の事業について連携して取り組みを進めることとなりました。

<協定の概要>

生活機能の強化にかかる政策分野	医療	・圏域にある救急医療、がん治療等を担う病院の診療機能強化の支援
	福祉	・圏域内の保育所情報についてホームページの充実
	教育	・圏域内の文化、体育施設について使用料の市外料金区分を撤廃 ・圏域内の図書館の利用登録制限を撤廃 ・学校給食に圏域内の特産食材の使用
	産業振興	・観光振興のため圏域の魅力発信事業の実施 ・圏域開催の産業技術展の支援 ・環日本海定期航路の開設初期経費を助成する民間団体を連携して助成
	その他	・下水道の管路を隣接する自治体の下水道に接続 ・災害時の応援、防災訓練の共同実施 ・大学など高等教育機関との連携充実 ・自然環境保全のため中海沿岸の一斉清掃等の取組みを拡充 ・各種廃棄物の効率的な処理等の検討
強結びつきやネットワークの強化にかかる政策分野	交通	・圏域の公共交通の利便性向上に向けた取組み ・県境を越えたコミュニティバスの運行 ・中海の湖岸を周遊できる道路の検討 ・中海架橋建設に向けた連携 ・「中海圏域振興ビジョン（仮称）」の策定 ・ケーブルテレビの圏域内の番組情報の共有化
圏域マネジメント能力にかかわる政策分野	人材育成	・職員の相互派遣と合同職員研修の実施 ・専門知識を有する経験者等の人材を共同で招へい

- (4) 現在、中海市長会（境港市、米子市、松江市、安来市、東出雲町）では、「中海圏域振興ビジョン」と「中海圏域定住自立圏共生ビジョン」の策定を進めています。
（案）ができ次第、パブリックコメントを実施する予定です。

<「中海圏域振興ビジョン」の概要>

(1) 策定の目的

- ・今後、中海圏域が一体感を醸成し、さらに発展していくために、圏域の各団体が共有すべき将来像を定め、一体となって取り組むべき方向性などを示すものです。
- ・中海市長会（境港市、米子市、松江市、安来市、東出雲町）が諸団体の協力により、独自に策定するものです。

(2) 計画期間

10年間

(3) 構成（予定）

- ①目的
- ②中海圏域の現状と課題
- ③中海圏域の将来像
- ④将来像実現に向けて（方向性、重要分野） など

<「中海圏域定住自立圏共生ビジョン」の概要>

(1) 策定の目的

- ・「中海圏域の定住自立圏に関する協定」に基づいて実施する連携事業の予算・実施年度・各市の役割などを具体的に示すものです。
- ・定住自立圏構想推進要綱に基づき策定するもので、中心市である松江市と米子市が境港市、安来市、東出雲町と連携し策定するものです。

(2) 計画期間

5年間

(3) 構成（予定）

- ①取り組み分野
- ②取組の概要、具体的事業
- ③予算、実施年度
- ④関係市町の役割分担 など

4 事業計画

<平成21年度 事業計画>

1 保健医療を担う病院への支援

医療機関の役割分担・連携により、適切な医療サービスが切れ目なく提供されるよう、保健医療を担う病院の診療機能強化について、必要な支援を行う。

支援を行う病院は、定住自立圏形成協定に記載されている医療機関とする。具体的には、救急医療やがん治療など、各地域住民に欠かせない医療を提供している次の病院とする。

①支援する病院及び対象事業

- | | |
|---------------|-----------|
| ・鳥取大学医学部附属病院 | 救急医療の充実事業 |
| ・鳥取県済生会境港総合病院 | 診療機能の充実事業 |
| ・松江市立病院 | がん治療の充実事業 |
| ・安来市立病院 | 診療機能の充実事業 |

②各病院への支援額

病院への支援総額は、原則として、地域活性化・経済危機対策臨時交付金のうち宣言中心市割増分の総額から他の事業に割当てた予算額を除いた額とする。

各病院の支援額の上限は、病院が所在する市町の平成17年国勢調査総人口をもとに、それぞれの人口の割合により按分した額（百円の位を四捨五入）とする。ただし、東出雲町には、救急医療等を担う病院が所在していないことから、当該住民が主に利用している松江市立病院に充当する。

各病院と協定を締結した上で、中海市長会から交付金を支払う。

2 学校給食に圏域内の特産食材の使用

学校給食に圏域内の農産物、水産物、又はその加工品等を取り入れ、子どもたちにその食材や地域の食文化等の知識を伝えることで、圏域に愛着が持てる取組を実施する。

今年度は、平成22年1月の給食週間を目途に松江市のしじみ、境港市のカニを提供する。

※その他の市町の特産食材は6月ごろに提供する予定である。

松江市 17,340食、米子市 10,603食、境港市 2,276食、安来市 2,874食
東出雲町 1,650食 合計 34,743食

3 圏域の観光振興

圏域の観光振興を目的として、圏域の魅力を内外に発信するための事業を連携して行う。

① 外国語パンフレット作成（担当：松江市）

環日本海貨客船や米子ーソウル便でロシア・韓国・中国等から圏域に訪れる外国人への情報提供を行うため、共通の外国語対応のパンフレットを作製する。

対応言語 日本語、英語、中国語、台湾、ロシア各1万冊、韓国語2万冊

主な配布先 空港、港、その他観光案内所等

② パンフレットスタンド（担当：松江市）

外国語対応のパンフレット及び各市町の観光パンフレットを置くため、パンフレットスタンドを配置する。（50台）

主な配置先 空港、港、その他観光案内所等

③ 外国語歓迎看板（担当：境港市）

境港に入国する外国人観光客に歓迎の意を表する看板を整備する。

整備場所 境港ターミナルを想定

④ 観光案内所等に翻訳機の配置（担当：松江市）

観光案内所、公設の観光施設等に外国語の会話に対応した翻訳機を配置し、外国人観光客の利便性の向上を図る。（50台）

⑤ フォトフレーム配置（担当：米子市）

中海圏域の風景や祭りなどの画像を数秒ごとに切り替え表示するソフトを表示するフォトフレーム（100台）を配置し、圏域の観光施設やイベント等の情報提供を行う。

配置先 さんいん堪能店（20店）に配置するほか、新たに配置先を開拓する。

⑥ ノベルティグッズ「ウンパくん」・「ゲゲゲの女房」の作成（担当：境港）

携帯ストラップ 10,000個×2種類

再生紙使用ボールペン 10,000個×2種類

メモパッド 「ウンパくん」 20,000個

「ゲゲゲの女房」 10,000個

紙バッグ 「ウンパくん」 10,000個

⑦ 遊悠絵図購入（担当：米子市）

中海圏域が一望でき、東京しまね館の観光窓口でも人気のある「遊悠絵図」を購入し、フォトフレームや外国語パンフレットに合わせて、さんいん堪能店、東京しまね館等に配布しPRを行う。

⑧ 2次交通関係調査・実証実験（担当：米子市）

圏域内に不足するといわれている観光客の2次交通について、コースを企画し、当地を訪れる観光客の需要、目的地等について、調査及び観光バスの実証実験を行う。

⑨ インバウンド対策（旅行商品開発）（担当：米子市）

圏域への観光商品の開発のため、事前調査・準備（担当者旅費等）

旅行会社とのタイアップによる圏域の観光商品の開発（次年度はパンフレット掲載が必要）

4 公共交通の利便性向上に向けた取組（担当：松江市）

バス・JR等の路線網図の作成及び路線の接続状況調査等を行う。

5 中海の湖岸を周遊できる道路の検討

中海圏域内の連携事業や中海を周遊する道路の検討を行うにあたり、必要な管内図、都市計画図を作成するもの。（担当：松江市）

<平成22年度 事業計画（案）>

1 学校給食に圏域内の特産食材を使用

子どもたちにその食材や地域の食文化等の知識を伝えることで、圏域に愛着が持てる取組を実施する。

圏域内の学校給食に4市1町の農産物、水産物、又はその加工品等の食材を取り入れる。

2 圏域の観光振興

圏域の観光振興を目的として、圏域の魅力を内外に発信する事業を連携して行う。

①動画コンテンツ作成業務

イベント・グルメ・レジャー等のスポットを撮影し、観光情報、観光展等で使用できるようにDVDを作成する。

②イメージソング作成業務

圏域のイメージソングをつくり、イベント等で活用する。

③メディア、インターネット等の活用

・ラジオを媒体とし、関西・岡山県・広島県で圏域情報を発信する。

・旅行雑誌に掲載し、圏域情報を発信する。

・圏域情報の発信（フリーペーパー・ポータルサイト神々のふるさと山陰に圏域の行政情報も掲載する。）

④ノベルティグッズ作製

携帯ストラップ、メモパッド、ボールペン等中海圏域のイメージキャラクター「ウンパくん」及び「ゲゲゲの女房」のノベルティグッズを製作し、圏域内外で行われるイベント等で配布し、中海圏域のPRを行う。

⑤インバウンド対策

ツアー造成 2,000千円 パンフ掲載費 4,000千円×2。

⑥バス事業（2次交通）の企画

圏域で不足しているといわれる2次交通について、現状を分析し、2次交通が必要な路線について実証実験を行う。

⑦海外商談会事業

観光連盟等が韓国等で実施する商談会に参加する観光関係者への渡航費用を補助し、圏域への誘客につなげる事業を実施する。

⑧中海圏域お祭り交流事業

圏域で開催する夏祭りの日程調整を行うほか、圏域内の市町で開催される祭りに参加するための補助事業を実施する。

例) どう行列をがいな祭りで、万灯を水郷祭で行う等

3 中海圏域産業技術展への支援

中海産業技術展において中海圏域のPRを実施する。

4 災害時の相互応援

圏域住民の安心・安全を守るため、災害時に支援する物資を共同で購入し、各市町で保管する。（折畳式簡易便器・し尿処理剤・間仕切り・土のう購入）

5 公共交通の利便性向上に向けた取組

前年度の調査結果を受けて、必要に応じバス等の試験運行を実施し、路線の必要性を検証する。

6 職員派遣及び合同職員研修

職員の資質向上と連携強化を図るため、合同職員研修を実施する。

7 外部からの専門的な人材を共同で招へい

圏域のマネジメント能力を向上させるため、専門的な経験や実績のある人材を招へいする。

○定住自立圏の取組に関する継続的なアドバイザー

○協定項目に沿った専門分野の講師招へい

医療・福祉・環境・公共交通等の分野の助言、講演等

○ロシアビジネスサポート専門人材配置事業